

日本の西端に位置する長崎県には、日本最多の1,479¹の島があります。朝鮮半島との間に飛び石のように浮かぶ壱岐と対馬、東シナ海上に鎖状に連なる五島は、古代より、日本と大陸を結ぶ「海の道」の要衝であり、地理的に大陸や朝鮮半島に近いことから、融和と衝突の最前線にありました。

日本遺産「国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～」は、2015年度に創設された日本遺産の第1号の一つとして、原の辻遺跡やカラカミ遺跡(いずれも壱岐市)が栄えた弥生時代から現在までの約2300年を超える大陸との交流のストーリーが認定されています。2025年度には認定10周年を迎えました。

新上五島町の日本遺産は「遣唐使史跡」、「伝教大師最澄ゆかりの山王信仰」、「日島の石塔群」の大きく三つの柱で構成されています。ここでは、「伝教大師最澄ゆかりの山王信仰」を中心に、最近発見された山王宮の棟札²や、山王山が位置する二方領³(主に平戸藩側)で活躍した人物について取り上げます。

なお、取材にご協力いただいた新上五島町や平戸のみなさまに感謝申し上げます。

『山王山』

「伝教大師最澄ゆかりの山王信仰」の山王山とは、新上五島町中通島の中央部・荒川郷に位置する雄嶽(439m)で、付近の雌嶽(401m)と対をなしています。山王山は、遣唐使時代に、伝教大師最澄が入唐成就の御礼参りとして比叡山延暦寺の守護神・山王権現^{さんのおごんげん}を祭祀したと伝えられています。山頂から三之宮、二ノ宮、一ノ宮が祀られており、二ノ宮の岩窟からは、舶載鏡2枚を含む平安後期から江戸時代にかけての報賽鏡が見つかっており、時代を超えて山王山が信仰対象として存在したことがうかがい知れます。

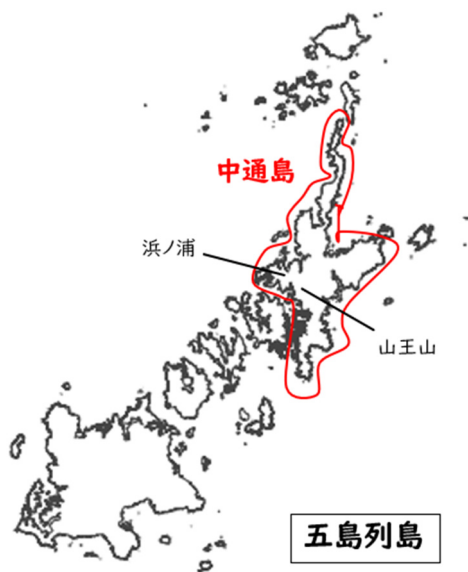
現在も地元荒川郷の「日本遺産山王山の自然と文化を守る会」が参道の維持管理を行っており、八合目まで車で登り、その後は徒歩で山頂の展望台に訪れることができます。(但し、細い山道を行きますので、軽自動車での移動がおすすめです。)山頂からは、五島列島を一望することができ、空気が澄んだ日には遠く平戸や外海を眺めることができます。

【長崎県文化振興・世界遺産課 矢島貴子】

¹ 海岸線が0.1km以上の島の数(国土地理院 2022年)

² 棟札(むなふだ)...建物の棟上の際に、建造の年月日や施主・大工などを記して、記録や記念のために、天井の棟木などに打ち付けられ奉納された木札

³ 二方領(にほうりょう)...江戸時代、山王山が所在する荒川は、平戸藩と五島藩の異なる2つの藩が支配する地域であった。



中通島を示す五島列島の地図
(「電子地形図(国土地理院)を加工して作成」)



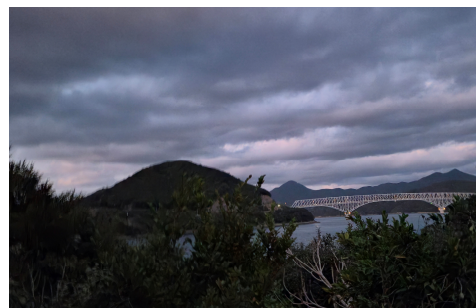
山王宮報賽鏡



旧荒川小学校から見た山王山



山王山からの眺望 東シナ海の出入り口



若松島から眺める山王山